

してはクエン酸刺激を併用した<sup>99m</sup>Tcシンチが診断に有用であった。また<sup>99m</sup>Tcシンチは腫瘍の性状や正常実質の残存をみるのに有用で、<sup>67</sup>Gaシンチを組み合わせることでかなり良悪性を鑑別することができた。

##### 5. 頭頸部領域における<sup>67</sup>Ga-citrate SPECTの有用性

谷 淳至 中別府良昭 土持 進作  
中條 政敬 (鹿児島大・放)

今回われわれは、頭頸部病変が疑われた17例で<sup>67</sup>Ga-citrate(Ga)による全身の前後像に加えて頭頸部SPECTを撮像し、両者の比較を行った。そのうち13例は、理学的検査などにより頭頸部病変の存在が確認されていた。明らかな異常集積を認めたもの(+)、認めないもの(-)、判定困難なもの(±)を視覚的に評価した。病変存在が確認されていた13例では全身像で(+)5、(-)3、(±)5例、SPECTで(+)10、(-)3、(±)0例であった。(+)を陽性とした場合の感度は全身像では38.5%、SPECTでは76.9%であった。病変存在が確認されていなかった4例では、いずれにおいても異常集積を認めなかった。Ga-SPECTは、頭頸部領域の評価に有用であると考えられた。

##### 6. <sup>123</sup>I-IMP脳血流シンチにて経過観察した副腎白質ジストロフィの1例

福島 健自 陣之内正史 長町 茂樹  
中原 浩 Leo G. Flores II  
渡邊克司 (宮崎医大・放)

症例は7歳男児。1993年4月より、視力障害、行動異常出現。神経内科にて副腎白質ジストロフィと診断された。受診時の<sup>123</sup>I-IMP SPECTでは、両側後頭葉、頭頂葉および側頭葉に広範囲の血流低下を認めた。同時期に施行されたMRI-T2強調像では後頭葉および側頭葉の白質に広範囲の高信号域が認められた。半年後、けいれん発作が頻回に出現するようになり、再度の、脳血流シンチおよびMRIによる評価を行った。MRI上は病変が前方に拡大していたのみであったが、脳血流シンチでは、当初低血流を示した後頭葉、頭頂葉および側頭葉に一致して高血流域を認めた。病態により脳血流の増減していることが

捉えられた。

副腎白質ジストロフィは病理学的には後頭葉および側頭葉の脱髓が主で、臨床的には進行性に精神運動機能の衰退、痙攣状態が増悪し、徐皮質状態となる疾患であるが、脳血流シンチは本疾患の病態把握に有用と思われた。

##### 7. <sup>201</sup>Tl SPECTが有用であった隣接した多発頭部腫瘍の1例

吉開 友則 松本 幸一 加藤 明  
内野 晃 工藤 祥 (佐賀医大・放)  
下川 尚子 中島 進 田渕 和雄  
(同・脳外)

症例は66歳の女性、主訴は右眼球突出。約10年前から右視力障害が出現し緩徐に進行した。平成7年6月右眼痛を覚え某病院眼科を受診。CTにて前頭部腫瘍を指摘されて当院脳外科を紹介された。CTでは眼窩上壁から前頭骨の一部を破壊する右前頭部の腫瘍と右側傍鞍部の腫瘍が一塊として描出され、造影剤にて共に強く増強された。MRIでは2つの腫瘍は信号強度の違いにより区別された。<sup>201</sup>Tl SPECTの早期像で2つの腫瘍には共に高集積がみられたが、後期像では前頭部の腫瘍は高集積が持続し、傍鞍部の腫瘍は集積が低下していた。手術の結果、前者は悪性線維性組織球腫、後者は髄膜腫であった。異なった<sup>201</sup>Tl動態が2つの頭部腫瘍の鑑別に有用であったので報告した。

##### 8. 婦人科悪性疾患術後症例における下肢RI venographyの臨床的意義

勝山 直文 堀川 歩 大城 康二  
吉長 正富 奥間 裕二 高良 誠  
中野 政雄 (琉球大・放)

今回、婦人科悪性疾患術後症例を対象に下肢RI venographyの方法および読影基準を検討したので報告する。対象は子宮頸癌35例、子宮体癌4例、卵巣癌2例、その他2例の計43例である。<sup>99m</sup>Tc-MAAを足背静脈より一定速度にて静注し、全身モードとスポットでの動態撮影の2種類を撮像した。正常ボランティア5例についても検討した。診断基準とその程度を決定するための所見として、1)深部静脈の閉塞ま